

2014年度事業・活動報告（2014年10月～2015年9月）

< 活動のまとめ >

- 年間140トンの古着類を回収し、アル・カイル事業グループ(以下AKBG)に94トンを送ります。46トンは国内販売および輸出用在庫とします。

1)古着・毛布などの回収

回収期間	回収量	送付人数
① 2014年9月1日～12月31日	35,195.0 kg	(7,454人)
② 2015年1月1日～4月30日	38,664.8 kg	(9,555人)
③ 2015年5月1日～8月31日	48,049.9 kg	(10,143人)
合計	121,909.7 kg	(27,152人)

2014年度の回収は、計画を140トンとしました。これは、AKBGへの年間4回の古着コンテナ送り出しと、国内古着リユース販売事業に必要な量として計画しました。回収実績は121.9トンで目標には届きませんでした（内訳：千葉センター101.9トン 東葛センター20トン）。前年度に比べても7.5トン減りましたが、昨年度はパキスタンへの送り出しが3回（計画は4回）しかできなかったため在庫が十分にあり、不足することはありませんでした。回収に参加して下さった方は約7300人増えました。会員・支援メンバーの方からの送付は全体の回収量の11%（延べ1,260人）になりました。ご協力ありがとうございました。

センターでの回収受付期間は年に3回もうけました。受付品目は回収（入口）と、パキスタン輸出・国内販売（出口）に必要なもののバランスで決めています。このため、品目別の在庫の量をみながら、期間によって受付品目を一部変更しました。

協力団体の方々からの回収では、大地を守る会、生活クラブ虹の街で、配達便トラックによる会員の方々からの古着回収に取り組んでいただきました。また、回収用紙への意見や質問の記入をお願いし、いただいたご質問などを広報に活かすことができました。生活クラブ虹の街の店舗（デポー）での回収は2ヶ月に1回（各4日間）行ないました。昨年度から回収が始まったパルスシステム茨城では、東葛センター見学選別体験、招日交流会などが行なわれ、回収量も参加者も増えました。パルスシステム千葉では、県内各地のセンター祭りの出展や販売、選別体験企画、東金センター祭りでの古着回収などを通じて、広く呼びかけていただきました。生活クラブ東京では、地域を限定した配達便による回収も実施し、参加人数は安定しています。生活クラブ茨城では、イベントや学習会、古着選別会などの企画を、地域ごとの活動として取り組んでいただきました。ポラン広場では回収に参加する方が増えました。笠間市では年間3回、笠間市で回収した古着を社会福祉協議会のボランティアの方たちが選別して、JFSAに届けていただきました。㈱ブラックロック・ジャパンでは、社内で回収した古着をボランティアの方が選別して送っていただきました。生活クラブ風の村では、回収場所を数箇所にとめることで効率的な回収を行なうことができました。第2回の回収から新しく生活クラブ生活協同組合埼玉が参加しました。

JFSAの千葉センター、東葛センター周辺の方たちには、看板やパネルなどなどを通じて広報しました。また、2つのセンターと千葉市稲岸公園で開催するチャリティバザール（6月と12月に実施）でも回収を行ない、周辺の地域の方たちが参加しました。

ホームページを見て参加する方の人数は、2005年にサイトでの案内を開始してから増え続けてきましたが、2011年度をピークにしてそれ以降は減少が続いています（2014年度は回収量9020キログラム・1142人が参加）。また、年度末の9月27日に朝日新聞の記事で古着の寄付先として紹介され、数日間は1日あたりのホームページの検索回数が数倍に増えました。

2)AKBG への古着送出し

第 47 回送出し量 (2014 年 11 月 12 日バン詰め、12 月 17 日 AKBG 受渡し・倉庫着)	23,403kg
第 48 回送出し量 (2015 年 4 月 1 日バン詰め、5 月 9 日 AKBG 受渡し・倉庫着)	22,439kg
第 49 回送出し量 (2015 年 6 月 24 日バン詰め、8 月 3 日 AKBG 受渡し・倉庫着)	24,135kg
第 50 回送出し量 (2014 年 9 月 30 日バン詰め、10 月下旬予定 AKBG 受渡し・倉庫着)	25,602kg
合計	95,579kg

今年度は計画した 4 回の送出しを実行することができました。輸出量も計画量を上回ることができました。前年度 4 回目の送出しが実行できなかった分のパキスタン輸出用ベール在庫が持越しとなり達成できた面があります。単年度で 4 回の送り出しを実行するための回収量は確保できているので、選別・梱包作業の体制をつくっていくことが課題として挙げられます。

AKBG の古着卸売販売の純利益は、前年度を上回ることができました。回収協力団体による配達便での直接回収では、パキスタンでの卸売り価格の高い毛布やバッグが多く集まりました。その結果、卸売り業者への売り渡し価格を引き上げることにつながりました。(資料：第 47 回、48 回、49 回、50 回 AKBG 古着販売事業収支参照)

パキスタンでの価格が低い品目については、現在、AKBG が卸売り販売をしている業者ワリー氏より、高く販売できる業者がないか調査を行っています。需要があり、販売価格が高い他国への輸出について検討するための調査を実行することはできませんでした。国内では、パキスタンでの価格の低い女性物やズボンを実験的に卸売り販売しましたが、条件面で折り合うことができず、継続できませんでした。回収案内を通して、価格の高い女性下着の回収のアピールや、特に価格の低いスカートは回収していないことを広報しました。

2. AKBG との連帯事業活動を継続し、推進します。新しい事業に取り組み、アル・カイルアカデミーの運営自立を支えます。

●古着販売事業

JFSAからは 4 本のコンテナをAKBGに輸出しました。コンテナの到着に合わせて事務局を派遣しました(第 50 回コンテナに合わせた派遣は 2015 年 10 月下旬の予定)。AKBGと古着卸業者ワリー氏との卸売価格交渉に立ち会い、AKBGの販売利益が増えるように協力しました。また、コンテナの荷下ろしに参加して、古着等の受渡しの確認を行ないました。

グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部からは 2 本のコンテナがAKBGに輸出されました。AKBGと古着卸業者ワリー氏との卸売価格交渉に立ち会い、AKBGの販売利益が増えるように協力しました。

【資料】第47回、第48回、第49回、第50回AKBG古着販売事業収支(単位:円)

	第47回(2014年12月到着)	第48回(2015年5月到着)	第49回(2015年8月到着)	第50回(2015年10月到着)	合計
送出し量	23,403kg	22,439kg	24,135kg	25,602kg	68,461kg
収入合計	¥2,621,136	¥3,076,746	¥2,706,691	¥3,432,307	¥11,836,880
①卸販売	¥2,621,136	¥3,076,746	¥2,706,691	¥3,432,307	¥11,836,880
古着等	23,403kg	22,439kg	24,135kg	25,602kg	68,461kg
(kg当たり価格)	古着等112円/kg	古着等137.116円/kg	古着等112.148円/kg	古着等134.064円/kg	
②パザール販売(バッグ等)	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
	0kg	0kg	0kg	0kg	0kg
*レート	1ルピー:1.00円	1ルピー:1.163円	1ルピー:1.219円	1ルピー:1.176円	平均1ルピー:1.140円
経費合計	¥1,102,491	¥1,180,226	¥1,237,972	¥1,523,527	¥3,520,689
①日本サイド	¥836,592	¥843,776	¥881,896	¥906,933	¥3,469,197
②パキスタンサイド	¥265,899	¥336,450	¥356,076	¥616,594	¥1,575,019
*1kg当たり経費	41.53円/kg	42.58円/kg	46.09円/kg	59.51円/kg	平均43.4円/kg
純利益	¥1,518,645	¥1,896,520	¥1,468,719	¥1,908,780	¥4,883,884
			- 2 -	前年度純利益	¥4,161,817円(送り出し3回分)

～今年度の古着卸売販売の純利益～

JFSA 第 47 回 151 万 8645 円、第 48 回 189 万 6520 円、第 49 回 146 万 8719 円、
第 50 回 190 万 8780 円

合計 **679 万 2664 円** (昨年度実績 **416 万 1817 円**)

グリーンコープ 第 8 回 130 万 3601 円、第 9 回 123 万 2860 円

合計 **253 万 6461 円** (昨年度実績 **203 万 8053 円**)

●新しい事業

国内販売の品目の多様化とAKBGへの新たな輸出品目として、「雑貨」についての調査を継続して行いました。パキスタンの雑貨輸入業者と協議を行い、雑貨の種類や品質、卸売価格の調査を行いました。また、AKBG理事で通関業者のアリー氏にも、パキスタンに輸入されている雑貨コンテナの状況などについての情報を聞きました。

●**AKBG 海外古着輸出** AKBG 事務局カユーム氏作成による会計資料を基に、会計業務を行ないました。それにより多岐にわたる確認事項についてスムーズに行うことができました。新たな展開としての国内卸売事業については、人員が不足していたため取り組むことができませんでした。

●**縫製工房** 縫製工房のパキスタン国内での仕事は、手間賃の安い請負仕事（ローカルカーム）が中心でした。事務局のカユーム氏は、新しい販売先を見つけるためにサンプルを持って問屋をまわりましたが、オーダーを受けるにはいたりませんでした。日本国内でのオーダーは、これまでも取り組んでいた生活クラブ風の村とグリーンコープ福祉ワーカーズ・コレクティブ連合会で、エプロンのサンプルの検討すすめていただきました。生活クラブ風の村からギャルソンエプロンのオーダーをいただきました。生活クラブ虹の街では、40 周年の記念取り組みとして検討していただきました。

製品の点検体制について事務局の派遣のときに話し合いを持ちました。工房では点検を十分に行なえるよう工夫し、JFSA では検針器を使用することにしました。

JFSA “サポーターグッズ”（高学年の生徒たちも作成に協力）として、2014 年度はブックカバーを作成しました。検討に時間がかかってしまい、会員の皆さんに年度内にお送りすることはできませんでしたが、パキスタン伝統のアジュラク染めをあしらったデザインで、JFSA の 20 周年記念企画としても販売企画をすすめることにしました。

3. 国内事業を推進します。

1) センター業務

①**千葉センター** 選別協力団体（6 団体）が作業に参加しました。コンテナ送出しの積み込み作業には各団体から参加がありました。前年度に比べ、各団体の作業参加日数が減ってしまい、作業量が減少してしまいました。新たな選別協力団体を増やすことを目指しましたが実行できず、未選別品がたまってしまいう状況が恒常化してしまいました。担当者が集まる「寄り合い」は 2 回しか行うことができませんでした。今後の選別協力団体の取り組みをどうしていくか等、課題について協議することができませんでした。

選別方法の効率化について検討し、繊維故業者の倉庫の見学を行いました。新たな方法の見直しをするまでには至りませんでした。パキスタン輸出用ベールの梱包方法（梱包バンド、梱包器具）を変更しました。それにより、作業に要する時間が短縮されるとともに、梱包バンドの強度があがったことでベールサイズを小さくすることができました。その結果、ひとつのコンテナに積める量が 2000 kg ほど増えました。

②**東葛センター** 周辺地域の商店、団体からなる『柏たなか商店会』に参加し、交流を深めました。商店会主催のイベントを通じて、活動のアピールを行ないました。選別協力団体として、1 団体の参加がありました。それ以上の参加呼びかけについては、人員が不足していたため行えませんでした。

2) ショップ販売

①**千葉ショップ** 2014 年 10 月末にオープンした倉庫側スペースは、常設の子ども服売場として商品数

を増やし、子どもが遊べるスペースも作りました。また、セールに合わせて売り出し企画を行い、来客、売上につながりました。

新しい取り組みとしては、障害者とともに古本販売事業を行う「社会福祉法人つどい あやめ」の古本を委託販売するとともに、古本の回収も行い、新しい方に JFSA に来てもらうきっかけにしました。また、パキスタンカレー作りの実演・試食を行い、食という切り口から活動を知ってもらう場としました。その他のフリースペース企画は行なえませんでした。

倉庫側スペースに常設のレジを設け、子ども服、企画の売上を別会計にする計画で、千葉②として予算を計上しましたが、常設のレジを設けることができず、10月、12月のセール期間中の売上は千葉②とし、その後はショップ^{カブレ}の売上としました。

②柏店(古着ショップ^{カブレ}kapre)

新事務局の増員ができず、連携体制については柏店がフリーマーケットやイベントへの商品準備を一部担うという形で進めました。『柏たなか商店会』を通じて、地域で活動する団体や商店へのアピールを行ないました。

3) 街商販売(フリーマーケット、その他)

●フリーマーケット、イベントへの出店

引き続き千葉銀座通り(てまひま本が協力出店)、池袋西口公園、赤羽公園、津田沼公園、世田谷公園、世田谷区ふれあい広場、船橋競馬場、大井競馬場などのフリーマーケットを中心に出店しました。また協力関係のある主催者からの紹介で、イベント企画や新規会場へ参加につながりました。

●販売協力団体

「ワーカーズ結」「あみあみ」による古着・毛糸などの販売協力がありました。また、女性グループホーム「ここすも」による毎月一回の津田沼公園フリマの出店、NPO クラブが運営する「おおなみこなみ」や自然食品店「アースマーケット」による常設販売が行われました。また「ワーカーズ結」メンバーが個人営業するショップによるフリマ出店などが行われました。販売商品の準備、管理などの業務についての協力関係作りが課題でした。ムザヒル校長招日時には販売協力団体の皆さんと交流会を開きました。

●街商部門の別グループ化の準備

古着などの販売事業の推進のため、別グループの立ち上げに向けて様々な場所で出会った人にこの取り組みの目的を伝え共有しました。

4) 市民活動と連動した企画

協力団体主催の企画や市民活動と連動した様々な企画に参加しました。FR うらやすは引き続き浦安市民祭り、いちかわ市民祭り、行徳まつり、その他企画への参加協力があり、また FR うらやす主催の「リサイクル着物市」、「ゆかたまつり」へ参加しました。また、着物関連では使いまわし工房、はぎれくらぶ麻の葉の皆さんの協力がありました。笠間市ボランティア協議会の皆さんには、笠間工芸の丘イベント参加の際にも協力いただきました。生活クラブ虹の街のデポー回収と合わせて、デポーで古着販売を行ないました。緑区おゆみ野の「みんなの広場」(地域の居場所・交流の場作り)と繋がりが生まれ第1回マルシェ企画に参加しました。

●支援バザール：JR 船橋駅北口デッキにて、年2回(11月と4月)に開催しました。

●チャリティーバザール：千葉センター、東葛センターでそれぞれ年2回(12月と6月)開催しました。千葉センターでは引き続き敬愛大学ボランティアサークルから大勢の参加協力がありました。稲岸公園のバザールは、年1回のみで開催(12月)となりました。東葛センターは、これまで駐車場を借りていた農協が工事のため使えませんでした。周辺の事業者の協力で駐車場を確保できました。

●着物市：千葉、東葛地域でリサイクル着物の販売に取り組む他団体と協力して開催しました。

●実行委員会参加企画：新松戸中央公園チャリティーフリマ、アースデイちば、しんけみ広場

4. 広報活動を充実し、多様な人々に活動の共感と理解を広げます。

1) 会員数の増減

【会員】会員数は昨年度より8名(2口)減少しました。

2014年度 155名(170口) 新規15人・未継続25人

2013年度 163名(172口) 新規18人・未継続16人 今年度計画 210口

【支援メンバー】支援メンバーは昨年度より3名減少しましたが、26口増加しました。

2014年度 1203名(1388口) 新規181人・未継続182人

2013年度 1206名(1362口) 新規205人・未継続199人 今年度計画 1500口

【団体会員】11(今年度計画11) 【団体支援メンバー】4(今年度計画6)

会員、支援メンバーともに減少してしまいました。会員は2013年度に比べ、新規入会者、継続者ともに減少しました。支援メンバーは新規入会者の数は減少しましたが、継続率はわずかですが上がりました。新規入会者の数が伸びなかったため、今年度も計画の達成には至りませんでした。

入会の呼びかけは、年3回の会報及び回収案内の発送の際に郵送しました。

今年度は再入会した会員・支援メンバーには、新規のサポーターグッズ(子どもたちが使った鉛筆入りの袋)ではなく、2013年度のサポーターグッズ(サッカーボールの飾り)を送付しました。

生活クラブ生活協同組合埼玉が新たに団体支援メンバーに加わりました。

●**サポーターグッズ**：2014年度のサポーターグッズは文庫サイズのブックカバーを作成してもらいました。しかし、グッズの詳細を決定するまでに時間がかかってしまいました。また、製作にも時間がかかり、2015年度に入ってから会員の皆さまにお届けしました。申し訳ございませんでした。

～2014年度のサポーターグッズ～

アル・カイルアカデミーで厳しい暮らしをしている子どもたちにとって「本」とはどういう存在なのか。どのような「本」が親しまれているのか。“本を読む”ということから、子どもたちの暮らしを伝えたいと考えました。作成は縫製工房に依頼し、高学年の女の子20名ほどにも手伝ってもらいました。生地はエプロンのハギレとパキスタンの伝統染物アジュラクを使用しました。1個200円とし、1300個作成してもらいました。

●**活動支援金**：活動支援金を815,000円(163件)いただき、活用しました。

切手やはがきを募集するチラシを昨年度の第2回目の回収(1月～)の案内送付の際に別刷りで入れました。回収協力団体による配達便・配送車で回収によって古着回収の参加者が増えたことにより、今年度も昨年度同様多くのハガキや切手をお寄せいただきました。回収案内や会報など、発送費用のほぼ全額(約178万円)と、ショップが発行しているDMの一部などを送っていただいた切手や書き損じハガキで賄うことができました。

金券はコンテナ送出しなどのカレー材料費、チャリティーバザールの餅つきの材料費、招日交流会などで使用(約9万円)しました。商品券や図書カードなどの金券は、理事に額面のまま購入していただきました。テレホンカードや一部金券類は、換金率の良いところで引き続き換金しました。古くて使用ができない金券類は、各メーカーに問い合わせをし、使用可能なものや郵便小為替に交換してもらいました。

2) 会報発行

JFSAの活動を会員・支援メンバーの皆さんに伝えるため、年4回会報を発行しました。

●会報

35号 2014年10月発行(2500部) 2014年度中に発行する予定でしたが、一緒に発送する予定だった洪水被災復興支援ニュースの編集と発送作業に時間がかかってしまい、10月の発送となってしまいました。招日報告・派遣報告・送出し報告と、千葉センター、東葛センター、稲岸公園(千葉市美浜区)で行なわれたチャリティーバザールの報告を行ないました。

36号 2015年1月発行(2300部) 12月に発行する予定でしたが、原稿の作成・編集作業に時間がかかり1ヶ月遅れての発送となってしまいました。送出しの報告・派遣報告・総会の報告を行ないました。また、古着を寄せていただいた方からの質問にお答えするページを作成しました。

37号 2015年4月発行(2300部) 送出しの報告・派遣報告を行ないました。

38号 2015年9月発行(2300部) 招日報告・派遣報告・送出し報告を行ないました。

印刷には千葉市民活力支援センターを活用しました。折り込み作業、発送作業はボランティアの方に手伝っていただきました。

●洪水被災復興支援ニュース⑧ 2014年10月発行 復興支援活動をお知らせするために、洪水被災復興支援ニュース⑧を発行し、会報35号と一緒に会員・支援メンバーの方に送付しました。

●洪水被災復興支援ニュース⑨ 2015年9月発行 復興支援活動をお知らせするために、会報38号と一緒に会員・支援メンバーの方に送付しました。

3) 回収案内 (2014年12月 2015年4月 2015年8月)

回収案内を3回発送しました。回収案内と一緒に、回収状況やコンテナが到着したニュース、入会のお願いを同封しました。

・2014年12月に発送した回収案内では、書き損じハガキ・切手を集めているというチラシを別途封入しました。

・2015年8月に発送した回収案内では、古着をお寄せいただいた方からいただいた質問に答える紙面を作成し、情報の充実に努めました。

4) ホームページの活用

JFSAの活動を知っていただくため、ホームページやブログを活用しました。古着回収についてのお知らせ、会報の紙面掲載、フリーマーケットの情報、ボランティア募集、よくあるご質問などのページを更新しました。情報を整理し、内容の充実を検討しましたが実行することができませんでした。

5) 活動報告会・交流会・企画出展など

活動報告会や交流会に参加しました。さまざまな企画に出展しました。

10月

4日(土)パルシステム千葉 東金センターまつり

10日(金)~13日(月)笠間浪漫

12日(日)四街道德洲会病院祭

13日(月)浦安市市民活動フェスティバル

18日(土)浦安市市民まつり

26日(日)パルシステム千葉生協まつり 新松戸中央公園チャリティーフリマ 生活クラブ茨城生き活きマーケット

28日(火)生活クラブ茨城牛久センター仕分け体験

11月

1日(土)市川市民まつり しんけみ広場(千葉市新検見川地域のお祭) パルシステム千葉習志野センターまつり

10日(月)世田谷桜町定時制高校授業参加(古着選別)

15日(土)16日(日)千葉市市民活動フェスタ

15日(土)長作小学校バザー

16日(日)行徳まつり

19日(水)JFSA定期総会

22日(土)ちばユニバーサル農業フェスタ

29日(土)生活クラブ千葉柏ブロック文化祭

12月

3日(水)~5日(金)浦安市市民活動センターでの着物市

1月

13日(火)・15日(木)千葉生涯大学校講師・古着選別体験

31日(土)生活クラブ茨城取手ブロックまつり

2月

20日(金)生活クラブ茨城牛久ブロック古着回収・選別体験

22日(日)行徳ガールズスカウト活動説明

23日(月)生活クラブ茨城 水戸ブロック古着回収・選別体験

3月

1日(日)大地を守る会東京集会(古着回収)

7日(土)松戸市市民活動見本市

9日(月)JA全中ちば活動報告

28日(土)美浜マルシェ

4月

- 26日(土)新松戸中央公園チャリティフリーマーケット出店
 24日(金)生活クラブ千葉柏ブロック総会
- 5月
 10日(日)アースデイちば
 23日(土)放送大学学生 JFSA千葉センター訪問
 24日(日)国際フェスタCHIBA
 31日(日)松戸はなみずき公園 フリーマーケット
- 6月
 1日(月)・8日(月)行徳公民館での活動説明
 13日(土)浦安国際交流・協力フェスティバル
 21日(日)大地を守る会 100万人のキャンドルナイト
 ●招日期間中のムザヒル氏・カユーム氏との交流会
 22日(月)カフェどんぐりの木
 25日(木)笠間市社会福祉協議会(古着選別見学)/生活クラブ茨城
 26日(金)生活クラブ千葉/アーシアン
 27日(土)ワーカーズコレクティブ結
 28日(日)東葛センターチャリティバザール内
 29日(月)生活クラブ埼玉/大地を守る会
 30日(火)パルシステム茨城
- 7月
 1日(水)ファイバーリサイクルうらやす(ゆかた祭り見学)/パルシステム千葉
 1日(水)～3日(土)ゆかたまつり(FRうらやす 浦安市市民活動センター)
 20日(月)霞ヶ浦フェスティバル
 25日(土)船橋市民まつり
- 8月
 8日(土)ルピナスハウス展示場まつり
 24日(月)市川夏休み体験ボランティア(5名参加)
 26日(水)松戸市レッツ体験ボランティア(7名参加)
- 9月
 4日(金)ハンサリム生協連合会 JFSA千葉センター来訪
 7日(月)・14日(月)世田谷桜町定時制高校 授業講師
 23日(水)エコメッセ千葉
 28日(月)みんなの広場マルシェ(千葉市緑区おゆみ野)
 29日(火)社福グリーンコープ・ファイバーリサイクルセンター 清水さん、齋藤さん来訪

回収協力団体や市民活動イベントに参加し、古着の販売やボランティア参加の呼びかけ、入会の呼びかけを行ないました。写真や映像を用いて、古着がどのように活用されたのか伝えました。

活動説明会の際には、事務局がパキスタンや送出しの様子を撮影した動画も用いました。

ムザヒル校長、AKBG事務局のカユーム氏を招日し、JFSAの会員や回収協力団体の職員・メンバーの方との交流の場を持ちました。

6) ボランティアの協力

●古着送出しコンテナ積み込み(第47回49名・第48回37名・第49回41名・第50回30名)

コンテナ詰め込みの際には、多くのボランティアに参加いただきました。選別協力団体の方が大勢参加されました。また、回収協力団体の職員の方、組合員の方、敬愛大学などの大学生たちの参加もありました。

●フリーマーケット、イベントなど： チャリティーバザール(千葉・東葛・稲岸)、支援バザール、松戸市民活動サポートセンター見本市、パキスタン・ジャパフレンドシップバザール、フリーマーケットの際、ボランティアの方に協力をいただきました(準備・片づけ・販売補助など)。

●市川市夏休み体験ボランティア： 8月22日に千葉センターでボランティア5名を受け入れました。JFSAの活動説明と古着の一次選別を選別協力団体と行ないました。

●レッツ体験夏休みボランティア： 8月26日に東葛センターでボランティア7名を受け入れました。JFSAの活動説明と古着の一次選別を行ないました。

●和服選別作業・販売など： 和服整理のボランティアを毎月(イベント前の時は複数回)行なっていただきました。また着物市(千葉・チャリティーバザール・東葛・ギャラリー・パキスタンジャパンプ

レンドシップバザールなど)の際は、販売でも協力をいただきました。

●会報、回収案内の発送など： ボランティアメーリングリスト等で呼びかけを行ない、切手やハガキの整理、会報や回収案内の発送作業を手伝っていただきました。

5. 年間研修プログラムを作成して研修を行ないます。理事、事務局は他団体の主催する講座に参加し、JFSAの活動の理念を深めます。

年間研修プログラムの作成はできませんでした。公開の学習会を開催できませんでした。

- ・3月24日 講座「NPOらしさ」と「働きやすさ」の両立を”(NPOクラブ) 事務局1名
- ・4月4日 セーフトラベルセミナー(マイチケット) 事務局1名
- ・9月8日 事務局研修(活動の課題の整理について) 事務局全員
- ・2014年10月～2015年9月 ウルドゥ語研修(毎月1～2回) 事務局全員

6. 多様な団体との連携をすすめます。

1)地球市民交流基金アーシアン 職業訓練所の訓練を生かした就労の場を作るための協力の提案はできませんでした。縫製工房にエプロンドレスのサンプル作成の依頼を受けて、工房スタッフリーダーのサルマさんに作成してもらいました。ムザヒル校長の招日期間中に、アーシアンの理事会の方たちと交流しました。

2)NPOクラブ 理事として理事会に参加しました。NPOクラブの理事に回収や事務局スタッフの募集への協力、イベントへの参加を呼びかけました。事務局スタッフ募集をNPOクラブが発行しているメールマガジンに掲載をお願いしました。NPOクラブの地域交流拠点“おおなみこなみ”で、古着の委託販売を行ないました。

3)ワーカーズコレクティブ千葉県連合会 ショップ部会への参加はできませんでした。ムザヒル校長、カユーンさんの招日の際に、ワーカーズ結のメンバーとの交流会を行いました(6月)。

4)FRうらやす、FR四街道、FR佐倉

FRうらやす…総会での活動報告を行ないました。活動支援金のカンパ、着物市やイベント出店への協力、アル・カイールアカデミーコンピュータークラスの運営資金支援に協力をしていただきました。
FR四街道…総会での活動報告、活動支援金のカンパ、イベント出店への協力、古着送り出しコンテナ積み込みに協力をしていただきました。

FR佐倉…活動支援金のカンパをしていただきました。

5)団体会員、団体支援メンバー 回収の広報を定期的に行っていました。回収協力団体を訪問して活動報告を行ない、メンバーの方たちの回収参加、他の団体への呼びかけなどについて協力をお願いしました。

① **大地を守る会**…招日交流会、古着送出しコンテナ積み込み参加、事務局の方のパキスタン訪問、イベント出展とイベント会場での古着回収、配送車による回収に協力をしていただきました。雑貨回収の取組みに向けて、雑貨の提供をしていただきました。

② **パルシステム千葉**…イベント出展、回収&選別体験企画の実施、センター祭り出展販売、古着送出しコンテナ積み込み、招日交流に協力をしていただきました。

③ **生活クラブ東京**…配達便回収(ベイセンター)に協力をしていただきました。古着送出しコンテナ積み込みに参加していただきました。

④ **生活クラブ虹の街(千葉)**…配達便回収、デポー(店舗)での回収と古着販売に協力をしていただきました。招日したムザヒル氏、カユーム氏との交流企画を実施していただきました。40周年記念の取り組みとして、縫製工房の製品購入を検討していただきました。東葛センターチャリティバザールに出店していただきました。

⑤ **ポラン広場**…回収に協力をしていただきました。

⑥ **社会福祉法人生活クラブ風の村**…AKBG縫製工房でエプロンのサンプルを作り、購入の準備をすすめていただきました。事業所での拠点回収を行ないました。

- ⑦ はぎれくらぶ麻の葉・・・和服整理と販売のボランティア、和服の委託販売、和服販売企画に協力していただきました。
- ⑧ 生活クラブ茨城・・・配達便回収と一次選別、学習会の開催、イベント出展に協力をしていただきました。招日交流会を実施していただきました。
- ⑨ グリーンコープ・・・役員と組合員の方がパキスタンを訪問しました。福祉ワーカーズ・コレクティブ連合会で、ワーカーの方が使うエプロンの縫製工房へのオーダーをすすめていただきました。
- ⑩ パルシステム茨城・・・招日交流会を実施していただきました。東葛センターで学習会企画（活動報告と選別体験）が行なわれました。
- ⑪ 生活クラブ埼玉・・・新しく回収協力団体に参加し、2014年度第2回の回収より取り組みが始まりました。招日したムザヒル氏とカユーム氏が訪問し、役員、事務局の方と交流しました。

6)他のNGOとの協力

具体的な連携の計画はできませんでした。

7)社会貢献を目指す企業との協力関係

新たに企業との協力関係を作ることはできませんでした。各センターでのチャリティーバザール開催時には地域の事業者から駐車場をお借りしました。千葉センターそばの紙問屋西ノ宮からは、安価で紙を譲ってもらいました。

8)APF(互惠のためのアジア民衆基金)との連携

APF 総会に出席するため 2014年11月1日～7日に、パレスチナのラマラを訪問しました。渡航できないムザヒル氏からメッセージを預かり総会で伝えました。

グリーンコープ行岡氏から提案されているリキシャ事業は、シンド州政府によってリキシャの使用が制限されたため、AKBGによって再検討されました。

APF 会員のハンサリム生協連合会（韓国）に招かれ、2015年4月にJFSAとAKBGの連帯事業の報告を行ないました。2015年9月にはハンサリム連合会の役員の方たちがJFSAを訪問しました。

9)社会福祉法人グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部との連携

事務局・理事の方がパキスタンを訪問し、グリーンコープが送り出した第9回のコンテナの卸売価格交渉への立会いと荷下ろし作業を確認しました。グリーンコープのゆうあいショップで販売するために、JFSAがパキスタンから輸入したラグを販売しました。

事務局の方が、JFSA第50回コンテナ送出しに合わせて来訪し、古着の回収や販売、作業、AKBG縫製工房の製品についての協議を行いました。

10)ユニバーサル就労ネットワークちば

ムザヒル氏たちの招日の際に事務所を訪問しました。ユニバーサル就労ネットワークちばから、生活困窮者自立支援法における、就労体験についての受け入れの提案があり、協議を行いました。

7. アル・カイルアカデミーの教育・連帯事業に関わるパキスタンの人々と交流を深めます。

6月22日から7月2日までムザヒル校長とAKBG事務局のカユーム氏を招日しました。JFSAのイベントへの参加、協力団体の訪問、会員や理事、選別協力団体との交流を行ないました。事務局を以下の日程で派遣しました。

2014年 11月20日（木）～27日（木）田邊・桑山

12月15日（月）～25日（木）入江

2015年 1月12日（月）～27日（火）田辺航太郎

2月16日（月）～3月5日（水）依知川

5月7日（木）～18日（月）田邊・入江

7月22日（水）～8月5日（水）田辺航太郎

7月22日（水）～8月3日（月）桑山

協力団体からは、(株)大地を守る会の豊島さん、坂本さん、グリーンコープ連合会の藤瀬さん、川上

さん、松尾さん、三原さん、(社福) グリーンコープ・ファイバーリサイクルセンターの清水さん、齊藤さんが訪問されました。事務局の同行者として、会員の佐藤さん、元東葛センターアルバイトスタッフの斎藤さんが訪問されました。

8. 国内事業、海外事業のすべてにわたって、危機管理を充実させます。

1)国内事業 消防署の立ち入り検査(定期検査)がありました。国内事業活動のリスクマネジメントマニュアルについて、作成には至りませんでした。

2)海外事業の危機管理 シミュレーションを実施することはできませんでした。